

## 令和元年度 幼稚園等初任者研修（公立第6回 私立第5回）報告

10月4日（金）、10日（木）、焼津市立豊田小学校、伊豆市立修善寺南小学校を会場に、初任者研修会が開催されました。小学校の授業参観や講義を通して、幼稚園教育と小学校教育とのつながりや小学校との連携の必要性について理解することを目標に行われました。本研修会には、県内の公立・私立の幼稚園や認定こども園の初任者が参加しました。

今回は、会場校の御協力のもと、校長先生はじめ教頭先生、1年学年主任からお話を伺いました。また、全学年の授業公開をしていただきました。

午後のグループ協議では、「授業参観から学んだこと」、「幼小の連携を踏まえた保育とは」をテーマに熱心に語り合いました。また、改めて小学校以降の生活や教育の基礎を培う幼児教育の大切さを実感する研修会となりました。

### 【全体会】



県幼児教育推進室長挨拶



メモを取りながら講義を熱心に聴く初任者

### 【授業参観】



教室内の環境や掲示物から教師の支援を学ぶ  
（焼津市立豊田小学校）



主体的に学びに取り組む子どもの表れを記録する  
（修善寺南小学校）

## 【グループワーク】



公立と私立の初任者が合同で協議する



グループでの話し合いをシェアリングする

### 【静西管内の初任者の感想から】

- ・低学年ほど保育室に近いと思った。小学校に入ると環境が一気に変わるのではなく、似たような環境を用意してくれていた。環境を通じた援助が小学校でも行われていることが分かり、子どもにとって、途切れたものでなくつながっているものであると実感した。
- ・1年生の先生の「幼稚園での学びの上に小学校の学びがある」という言葉が心に残った。どんな力を付けてほしいか、そのためにはどんな活動がよいか考え保育に取り組んでいきたい。
- ・日頃「保・幼・小の連携」という言葉を耳にするが、小学校の生活をイメージできるのは自分が通っていた時の記憶だけだった。今日の研修で小学校の様子を見聞きすることができ大変ありがたかった。担任する4歳児も少しずつ就学が視野に入ってくる。一人一人のために自分ができることを考え実行していきたい。
- ・小学校と幼稚園とのつながりや共通点、相違点を知ることができた。授業では子どもたちへの問い掛けが多く「主体的・対話的で深い学び」が進められていることが分かった。小学校の姿を見据え、保育でも主体的な活動を取り入れていきたい。また、10の姿を念頭にイメージし保育に取り組む重要性を感じた。

### 【静東管内の初任者の感想から】

- ・小学校の授業を参観し、視覚支援や子どもの主体性の育成など、幼稚園との共通点に多く気付くことができた。また、1年生が小学校生活に慣れるまでどのように教師が配慮し進めているか知ることができた。1年後の小学校での子どもの姿を見据え、遊びや生活を充実させていきたい。
- ・卒園した園児がどのような生活をしているのか今まで知らなかったのが、貴重な研修の機会となった。子どもにとっては、幼稚園での遊びが中心だった生活から学習が中心となる生活になり、不安や戸惑いがある。だからこそ、丁寧な関わりをしているのだと思った。
- ・1年生が、グループ活動の中で、友達と熱心に伝え合う姿を見て、今担任している4歳児では、どのように伝え合う活動を取り入れていけばよいか考えた1日だった。
- ・グループワークでは、新たな発見や気付きがたくさんあった。「視覚支援」についての意見がたくさん出され、今後の保育に取り入れていきたいと感じた。
- ・予測とは異なる子どもの姿や発言に対して、柔軟に対応し見守っている先生方の温かさが伝わってきた。様々な工夫があるからこそ子どもたちと向き合えるのだと思った。